

長岡市長賞

税との付き合い方

長岡市立小国中学校

三年 荒井 詩子

フィンランドの消費税はなんと日本の二・四倍に及ぶらしい。昨年、日本の消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられた。増税前には安いうちに買っておこうと、多くの人が家電量販店に押し寄せた。

このように消費税は、たった二パーセントの引き上げでも暮らしに大きく影響するのだ。

一方フィンランドの通常消費税率は二十四パーセントと、日本に比べて非常に高い。ところがフィンランドは世界一幸せな国と呼ばれているのだ。日本では二パーセント増税しただけでも批判の声が上がったが、なぜ高税のフィンランドが幸せな国と呼ばれるのだろうか。

フィンランドの税金は様々な分野に使われる。日本との大きな違いは、小学校から大学までの学費を全て国が免除してくれることだ。受験生として今後の進路について考える今、私の周りでは「私立高校に行きたいけど、学費が高いから公立高校かな。」とよく聞く。やはり行きたい学校があっても、経済的な理由で諦めてしまう人も少なくはないようだ。

このような観点から、フィンランド人の幸福度が高いのは、税金の使い道に納得しているからだと感じた。税金は高くても、

その分自分に返ってくるという保障があるのだ。

ではなぜフィンランドより税金が低い日本で、少しの増税で批判されてしまうのだろうか。

私はかつて消費税を払うことに乗り気でなかった。税金の使い道を知らなかったからだ。

しかし、日頃使っている教科書等が、私達国民から集められる税金から成り立っていると知り、今まで嫌々納めていた税金への見方が変わった。やはり使い道が分かると、一方的ではなく相互的に支え合っていると感じられるのだ。

私は自分の経験から、日本の政府が少しの増税で批判されてしまうのは、国民の税金への知識が足りないからだと思う。日本はフィンランドに比べて学費の免除等が少ないため、自分に税金の恩恵が返ってきていると実感しにくいかもしれない。だが、普段気が付かないだけで、私達の身の周りには税金によって成り立っているものがたくさんある。

今現在も過去の私のように、税金に対して消極的なイメージを持っている人がたくさんいるだろう。そのような人には、もし税金という仕組みが無いと、国がどうなってしまうのかを考えてみてほしい。経済的な理由で学校に通えない子供や、治療費が払えず未治療のままの人が増えてしまうだろう。また、普段から利用する道路等も、税金によって成り立っているため、災害で利用できなくなった場合、復興に長い年月が必要になるだろう。

つまり、税金は社会を円滑に進めていくために、必要不可欠な存在なのだ。

税金は必ず自分、そして社会に役立っていると気付くことが出来れば、フィンランドのように、税率の高低に関係なく快く国に貢献できるようになれると、私は思う。